

# 豚肉に関する最近の情勢について

平成24年9月

農林水産省生産局食肉鶏卵課

## (1) 消費

消費量（推定出回り量）は、20年度は、景気の低迷による消費者の低価格志向等から、対前年度比2.0%増となった。

21年度は、国産豚肉の価格が低下しその消費量が増加したものの、輸入豚肉の消費量が大きく減少したこと等から、対前年度比2.2%減となった。

22年度は、家計消費の増加等から対前年度比1.4%増となった。

23年度は、家計消費の増加や堅調な豚肉加工品需要を背景に対前年度比1.7%増となった。

24年度(4～7月)は、対前年同期比1.2%増となっている。

### ○ 豚肉需給の推移

(部分肉ベース、単位:千トン、%)

年度 区分	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24 (4～7月)
消費量	1,549 (2.2)	1,622 (4.7)	1,662 (2.5)	1,720 (3.5)	1,716 (▲0.2)	1,636 (▲4.7)	1,641 (0.3)	1,674 (2.0)	1,637 (▲2.2)	1,660 (1.4)	1,688 (1.7)	552 (1.2)
生産量	862 (▲1.9)	872 (1.2)	893 (2.4)	884 (▲1.0)	870 (▲1.6)	874 (0.5)	873 (▲0.2)	882 (1.1)	923 (4.6)	894 (▲3.1)	894 (0.0)	292 (4.4)
輸入量	706 (8.5)	748 (5.9)	779 (4.2)	862 (10.7)	879 (1.9)	737 (▲16.2)	755 (2.4)	815 (8.0)	692 (▲15.1)	768 (11.0)	803 (4.5)	248 (▲7.2)
期末在庫	144	142	151	177	210	185	171	194	172	174	183	171

資料:農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「日本貿易統計」

(独)農畜産業振興機構「食肉の保管状況調査」

注1:( )内は対前年度増減率

注2:消費量は生産量、輸入量及び期末在庫より推計した推定出回り量

## (2) 国内生産

国内生産量は、20年度は、堅調な卸売価格や衛生対策の効果による事故率低減等から、対前年度比1.1%増となった。

21年度は、子取用めす豚頭数の増加や衛生対策の効果から、対前年度比4.6%増となった。

22年度は、宮崎県における口蹄疫の発生や記録的猛暑の影響により出荷頭数が減少したこと等から、対前年度比3.1%減となった。

23年度は、年度前半は、前年の猛暑による受胎率の低下から、出荷頭数が減少したものの、8月以降出荷頭数が増加した結果、前年度並みとなった。

24年度(4～7月)は、対前年同期比4.4%増となっている。

### (3) 輸出入

① 輸入量は、20年度は、景気の低迷による消費者の低価格志向を背景に、対前年度比8.0%増となった。

21年度は、輸入在庫の取崩しが進んだことや、国内生産量の増加を背景に輸入豚肉の需要が減少したこと等から、対前年度比15.1%減となった。

22年度は、期首の輸入品在庫量が低水準であったことや、国内生産量が減少したこと等から対前年度比11.0%増となった。

23年度は、豚肉加工品需要の増加等から対前年度比4.5%増となった。

24年度(4~7月)は、年度当初から税関において輸入審査の厳格化が図られていること等から、対前年同期比7.2%減となっている。

② 輸出量は、19及び20年度は、香港・台湾向けの輸出が堅調なこと等から、それぞれ、対前年度比、129.5%増、86.6%増となった。

21年度は、台湾・ベトナム向けのくず肉の輸出が引き続き堅調なこと等から、対前年度比11.8%増となった。

22年度は、4月20日に宮崎県において発生した口蹄疫を受け、ベトナム等への輸出が停止したことから大幅な減少(対前年度比75.4%減)となった。

23年度は、マカオへの輸出再開等により、対前年度比27.6%増となった。

24年度(4~7月)は、マカオ向けの輸出が減少したこと等から、対前年同期比42.3%減となっている。

#### ○豚肉の輸入量

(部分肉ベース、単位:千トン、%)

区分 年度	輸 入 量											
	合 計						国 別 輸 入 量					
	うち 冷蔵		うち 冷凍		デンマーク		米国		カナダ			
	数量	対前年比	数量	対前年比	数量	対前年比	数量	対前年比	数量	対前年比	数量	対前年比
13	706	108.5	203	105.2	503	109.9	216	110.7	243	120.8	157	122.5
14	748	105.9	196	96.4	552	109.7	221	102.4	247	101.8	168	107.2
15	779	104.2	178	91.2	600	108.8	233	105.4	246	99.3	172	102.4
16	862	110.7	188	105.6	674	112.3	265	113.5	257	104.7	189	109.3
17	879	101.9	217	114.9	663	98.3	227	85.6	292	113.4	189	100.0
18	737	83.8	224	103.6	513	77.4	167	73.4	261	89.5	155	82.3
19	755	102.4	239	106.4	516	100.6	152	91.0	278	106.5	165	106.6
20	815	108.0	273	114.5	542	105.0	153	100.9	342	123.0	178	107.5
21	692	84.9	224	82.1	468	86.3	128	83.7	275	80.5	174	98.0
22	768	111.0	236	105.2	532	113.8	133	103.8	309	112.3	176	100.9
23	803	104.5	258	109.3	545	102.4	131	98.8	330	106.6	174	99.2
24(4~7月)	248	92.8	86	100.8	162	89.1	40	84.6	102	93.7	56	106.2

資料:財務省「日本貿易統計」

#### ○豚肉の輸出量及び輸出金額

(部分肉ベース、単位:トン、%、百万円)

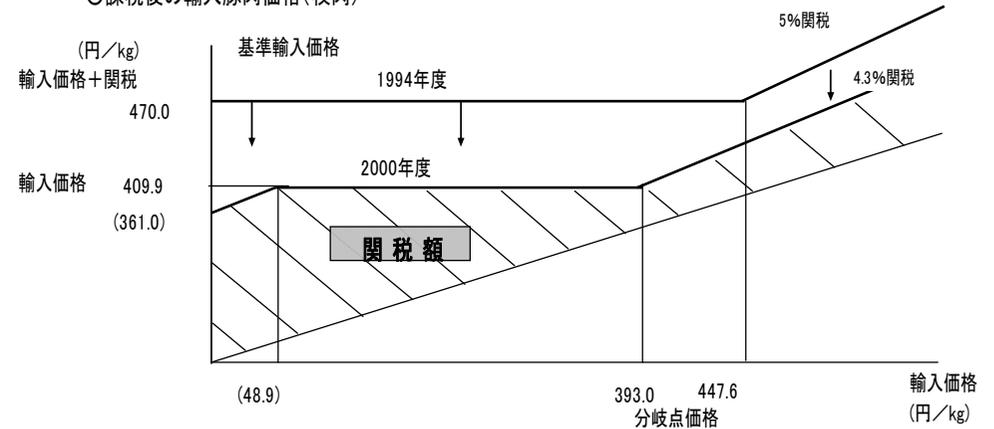
区分 年度	輸 出 量		輸 出 金 額	
	合計	対前年比	合計	対前年比
13	376	190.6	195	199.8
14	86	22.9	15	7.7
15	63	72.9	9	60.7
16	15	24.3	14	161.4
17	53	348.0	57	397.9
18	441	831.5	102	177.0
19	1,012	229.5	215	211.8
20	1,889	186.6	375	174.4
21	2,113	111.8	400	106.7
22	519	24.6	259	64.8
23	663	127.6	258	99.7
24(4~7月)	131	57.7	71	85.4

資料:財務省「日本貿易統計」

## ○ 豚肉に係る国境措置

- i) ウルグアイ・ラウンド農業交渉において、差額関税制度の機能を維持したが、基準輸入価格等について譲許水準からの引き下げを合意した。
- ii) 一方、その代償措置として、豚肉等について、各四半期末までの累計輸入量が発動基準数量（前3か年同期の平均輸入量の119%）を超えた場合、基準輸入価格が譲許水準に戻される緊急措置制度を導入した。

○課税後の輸入豚肉価格(枝肉)

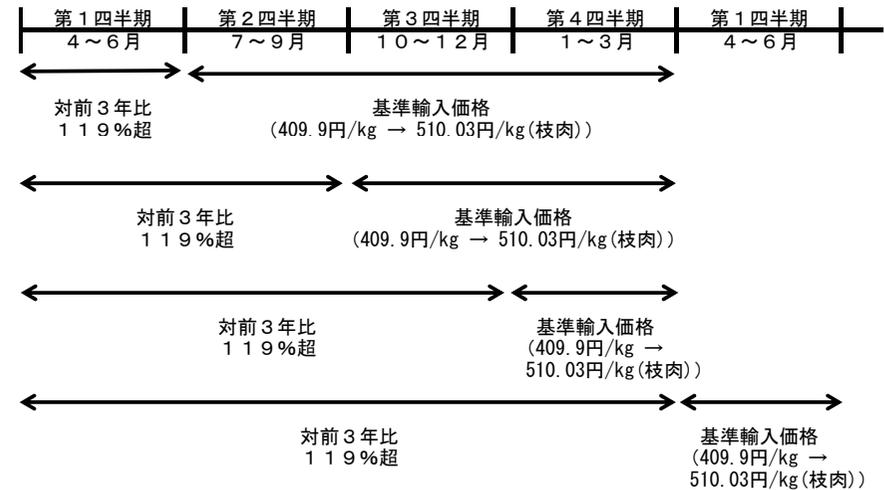


○豚肉の基準輸入価格及び従価税率（枝肉）

(単位：円/kg、%)

年度 (西暦)	平成7 (1995)	8 (1996)	9 (1997)	10 (1998)	11 (1999)	12~24 (2000~2012)
基準輸入価格	460.01	450.02	440.06	429.71	419.79	409.90
従価税率	4.9	4.8	4.7	4.5	4.4	4.3

○緊急措置の発動例



(注) 実際の輸入と輸入統計公表までにタイムラグ(約1ヶ月)が存在するため、四半期当初からの発動とはならない場合がある。

#### (4) 卸売価格

20年度は、年度前半は中国ギョウザ事件等を契機とした国産志向の高まりから堅調に推移したが、年度後半は供給量の増加や景気の低迷等から軟化し、対前年度比4.4%低下した。

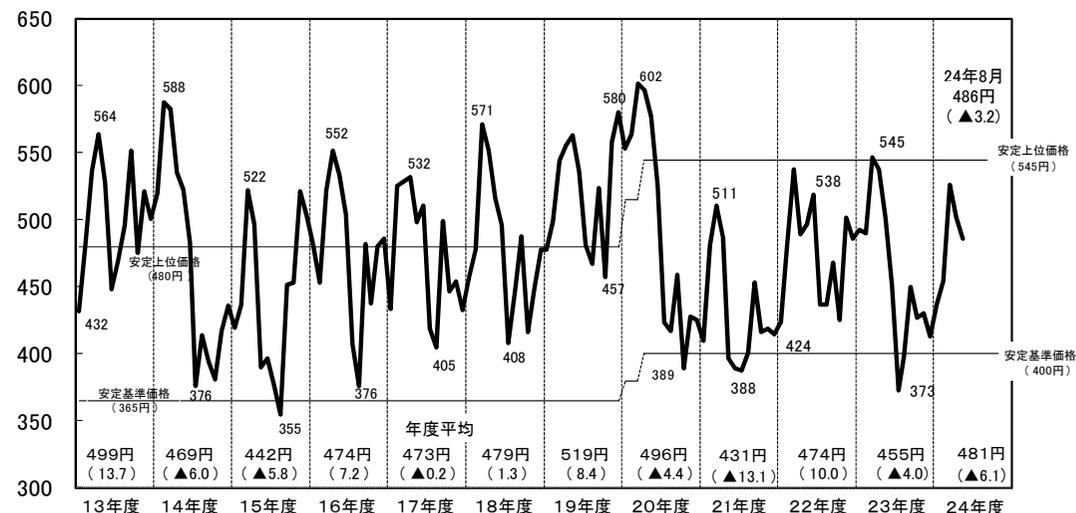
21年度は、国内生産の増加や国産在庫の水準が高いこと等から7月下旬以降急速に低下した。そのため、豚肉卸売価格の回復を目的として10月13日から22年3月末まで調整保管を実施した結果、3月では415円/kgまで回復した。年度では対前年度比13.1%低下した。

22年度は、宮崎県における口蹄疫の発生や記録的猛暑の影響により出荷頭数が減少したこと等から、対前年度比10.0%上昇した。

23年度は、8月以降出荷頭数が増加したこと等から、対前年度比4.0%低下した。

24年度(4~8月)は、対前年同期比6.1%低下している。

円/kg ○ 豚枝肉卸売価格の推移(東京・大阪加重平均)



資料: 農林水産省「畜産物流通統計」  
 注1: 価格は東京及び大阪の中央卸売市場における「極上・上」規格の加重平均値(省令価格)  
 注2: ( )内は対前年度騰落率(24年度は対前年同期比(4~8月))  
 注3: 24年8月分は速報値

#### (5) 飼養動向

① 飼養戸数は、小規模の飼養者層を中心に減少傾向で推移しており、24年は対前年比2.8%減少した。

② 飼養頭数は、19年は、堅調な豚肉価格等を背景に、対前年比1.4%増となり、20年は、ほぼ横ばいとなった。

21年は、20年前半までの枝肉卸売価格が堅調に推移していたことや衛生対策の効果等から対前年比1.6%増となった。

23年は口蹄疫発生や猛暑の影響等から、対前年比1.3%減となった。

24年は、対前年比0.3%減となっている。

③ 1戸当たりの飼養頭数は着実に増加しており、24年は1,667頭、対前年比2.6%増となった。

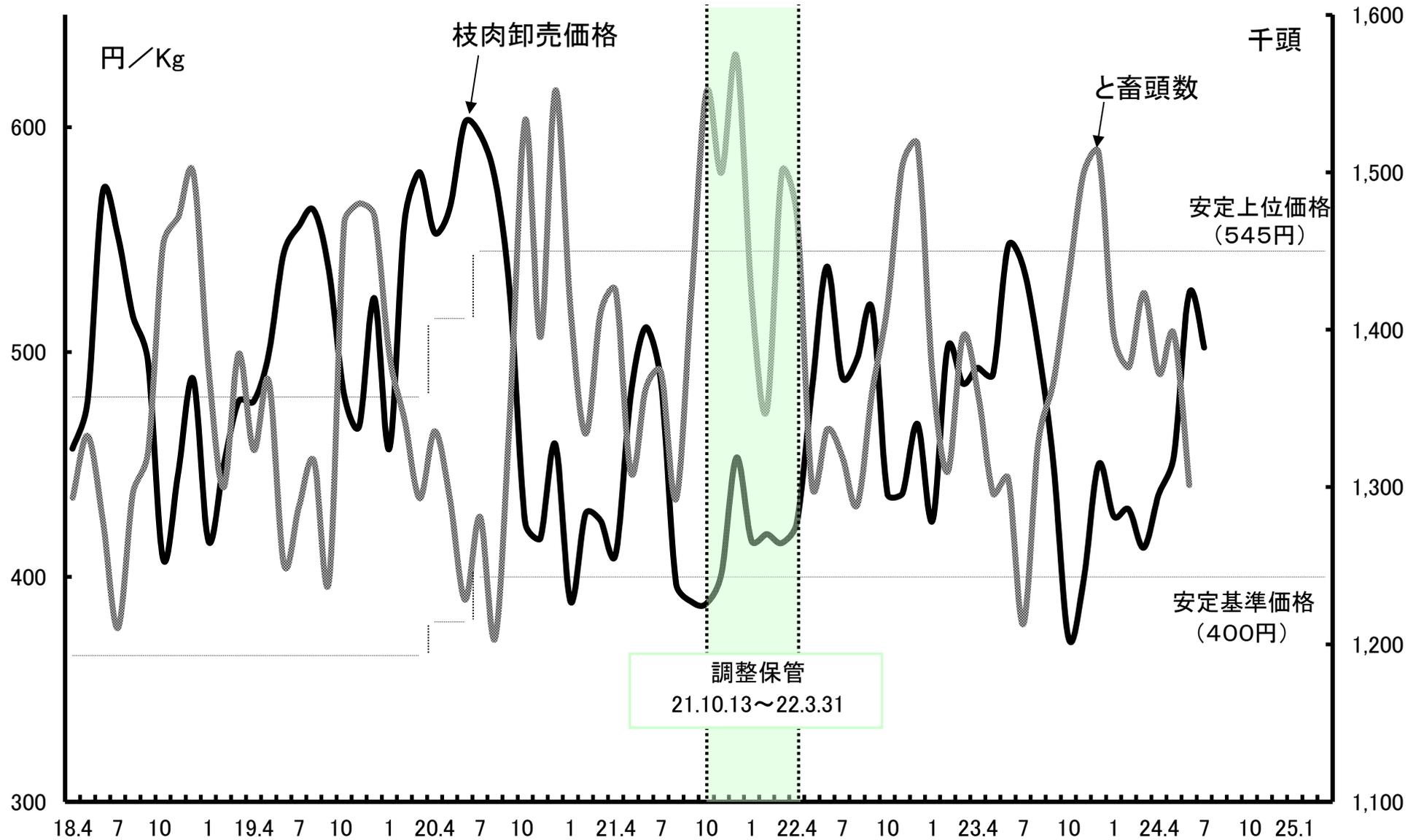
○ 豚飼養戸数、頭数の推移

(各年2月1日現在)

区分 / 年	13	14	15	16	18	19	20	21	23	24
飼養戸数(千戸)	10.80	10.00	9.43	8.88	7.80	7.55	7.23	6.89	6.01	5.84
(対前年増減率)	(▲7.7)	(▲7.4)	(▲5.7)	(▲5.8)	(▲12.2)	(▲3.2)	(▲4.2)	(▲4.7)	(▲12.8)	(▲2.8)
うち肥育豚千頭以上層 (戸数シェア)	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0
(対前年増減率)	(24.1)	(25.4)	(26.4)	(27.2)	(30.7)	(31.0)	(33.6)	(34.2)	(37.0)	(38.7)
飼養頭数(千頭)	9,788	9,612	9,725	9,724	9,620	9,759	9,745	9,899	9,768	9,735
(対前年増減率)	(▲0.2)	(▲1.8)	(1.2)	(0.0)	(▲0.9)	(1.4)	(▲0.1)	(1.6)	(▲1.3)	(▲0.3)
うち子取用雌豚 (対前年増減率)	922	916	929	918	907	915	910	937	902	900
(対前年増減率)	(▲0.8)	(▲0.6)	(1.4)	(▲1.3)	(▲1.1)	(0.9)	(▲0.5)	(2.9)	(▲3.7)	(▲0.2)
うち肥育豚千頭以上層 (頭数シェア)	6,640	6,615	6,812	6,874	7,231	7,379	7,497	7,831	8,022	7,974
(頭数シェア)	(71.1)	(72.1)	(73.8)	(74.7)	(79.1)	(79.7)	(80.8)	(82.3)	(84.8)	(84.9)
一戸当たり 飼養頭数(頭)	906.3	961.2	1,031.3	1,095.0	1,233.3	1,292.6	1,347.9	1,436.7	1,625.3	1,667.0
一戸当たり 子取用雌豚頭数(頭)	97.5	104.3	112.1	118.1	133.8	139.5	145.6	157.4	176.5	183.7

資料: 農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」  
 注1: 肥育豚千頭以上層の戸数シェア及び頭数シェアは、学校、試験場等の非営利的な飼養者を除いた戸数(頭数)に対する割合である。

# 豚枝肉卸売価格及びと畜頭数の推移

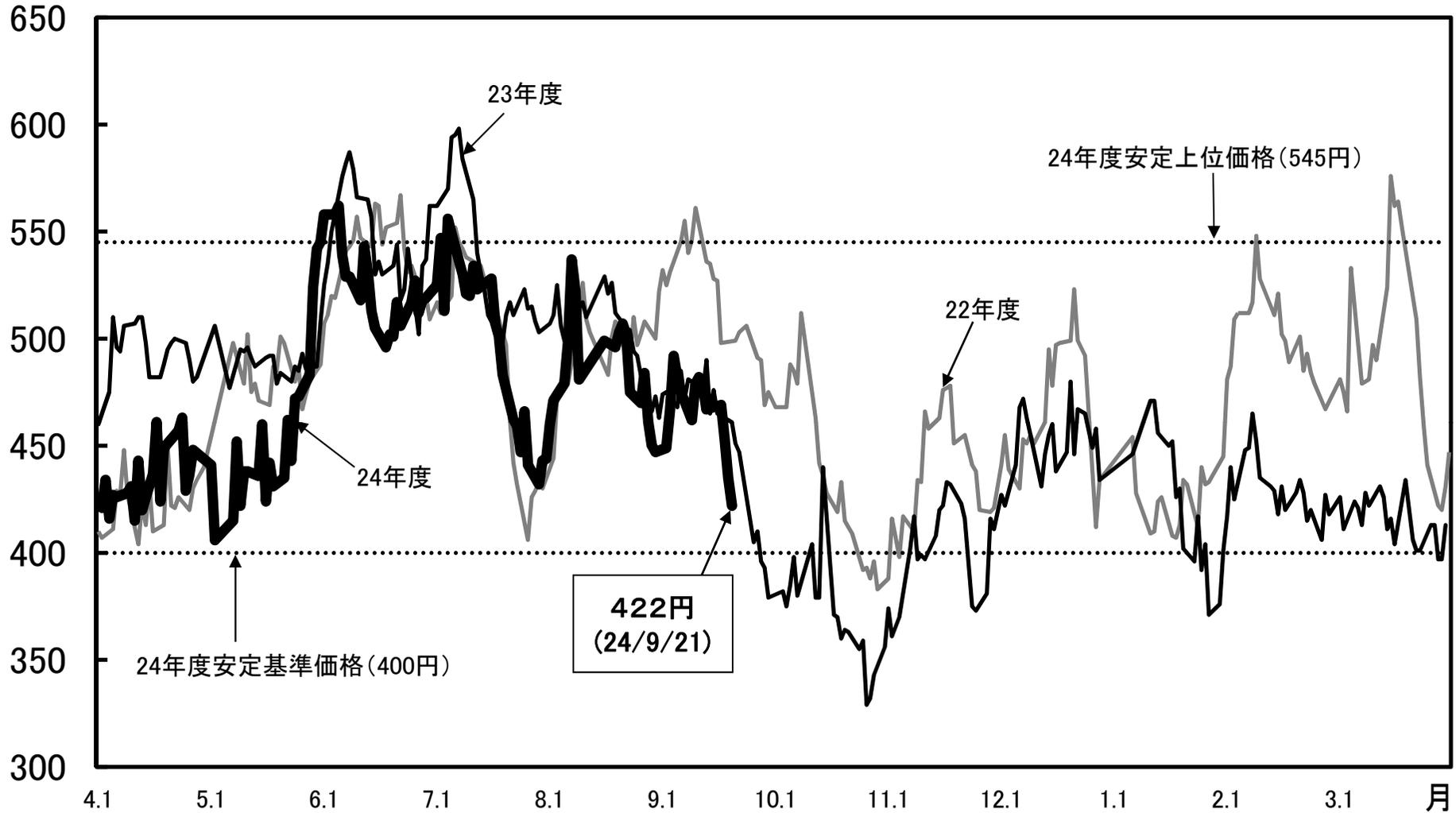


資料: 農林水産省「食肉流通統計」

円/kg

# 豚枝肉卸売価格の推移

(省令価格、東京・大阪加重平均)



資料:「畜産物市況速報」農林水産省統計部  
注1:東京大阪食肉市場の生体搬入物の頭数加重平均価格である。  
注2:土・日曜日、祝日の価格を除く。